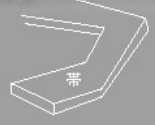
COMPOSITION

三つのレイヤ

この立体的地割、小さな個性を手がかりに全体を三つのレイヤで構成する。

1.帯

特定の機能を持たない帯状のスラブを地下から屋上までループさせていく。その際、小さな個性の影響を受けてスラブは幅、高さを微妙に変化させていく。フレームに沿って構成することで元々の均質だった個々の空間が一つながりになり、多様な場を持ったワンルームを形成される。

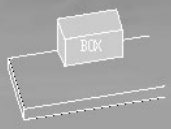


2.パブリックコア

レストラン、ミニシアター、ジム、スパといった特定の機能を持った大空間が各階に配される。これらはエスカレーターで直接、接続され市民や観光客など多様な人々が訪れる。

3.BOX

BOXは帯上に配される。このBOXによって帯にさらなる多様性が生まれる。主にプライベートな活動に利用され、BOXの材質、形状は様々で上層になるにつれてプライベート性が高くなる。

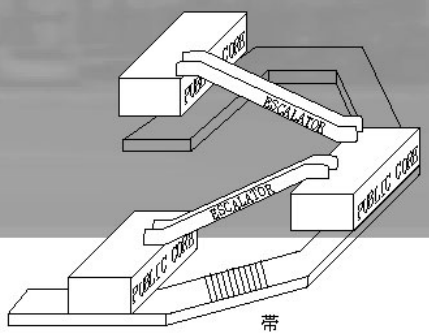


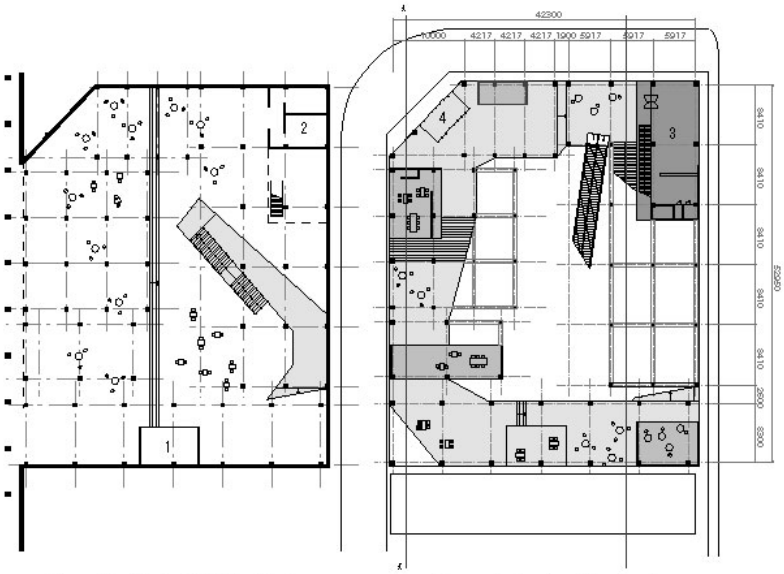
動線

主な動線は帯とエスカレーターの2種類で構成されている。

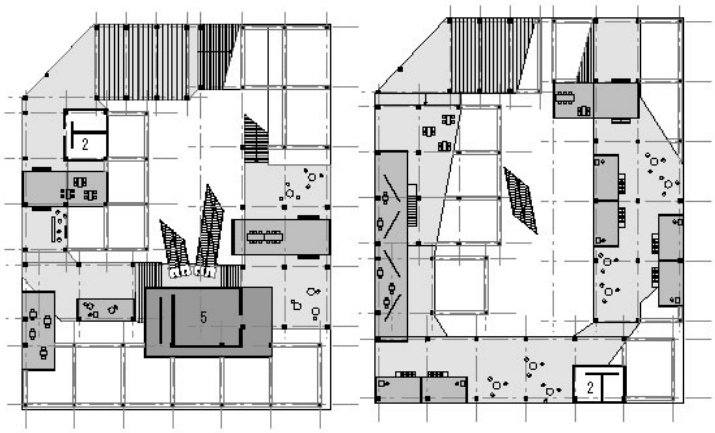
エスカレーターはパブリックコアを結ぶように連結され、帯はそれらを取り巻くように構成される。

そのため、回遊性を持たせつつ、一般市民や観光客とワーカーの動線を分けることができる。





Level 0 (-3000mm)plan　Level 1 (±0mm)plan



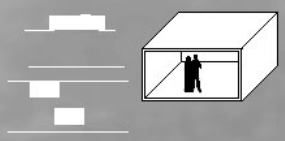
Level 2 (+6500mm)plan　Level 3 (+13000mm)plan

PROGRAM

JOINT

オフィス活動の組織単位は縮小化され、あるプロジェクトを創出する場合、一時的なつながりであるJOINTもしくはコラボレーションを行うことで高密度なコミュニケーションが可能となる

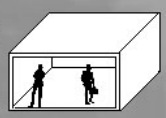
この場合、上層のプライベートなBOXを一定期間借りることで作業を行う



SHARE

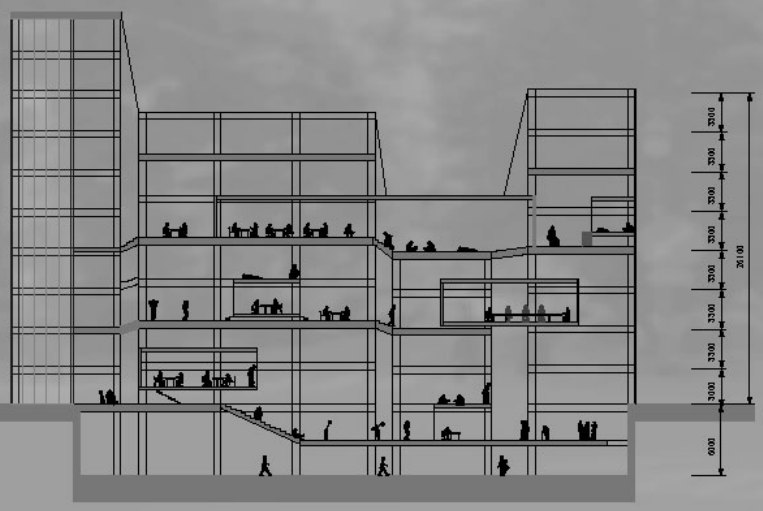
次世代のワーカーはActiveである

ユビキタスなネットワークが可能となったことで、働く場が拡大した。
あるBOXを他人と共有することで時間的な空白を埋める。これにより、アクティビティの時間的変化が期待される。ワーカーだけでなく夜はアーティストの作品展示の場にも使われる。



これはITの進歩によって、書類等のモノの必要性が薄れたために可能となった

これは下層のBOXで行う。



A-A' section

0 5 10 20M

INTERACTIVE

次世代のワーカーには柔軟性が求められる

INTERACTIVE、つまり相互作用的な関係がアイディアの創出や偶発的な出会いをもたらす。
このINTERACTIVEを生むことがこのプロジェクトの大きな目的でフロアごとに断絶され、
エレベーターで目的地へと向かい、近くにいながら何をしているのかさえよくわからない現在のオフィスビルにもっとも欠けている部分である。

不均質さによって生み出された多様な場がこのINTERACTIVEな関係に大きく寄与する